

平成26年8月28日

8月25日から28日の日程で、ミャンマーの首都ネピドーに出張しました。同地では、第1回日 ASEAN 新産業官民対話、日 ASEAN 経済大臣会合、ASEAN+3 経済大臣会合、日メコン経済大臣会合、東アジアサミット(EAS) 経済大臣会合および RCEP(東アジア地域包括的経済連携協定)閣僚会合に出席しました。

また、マレーシア・ムスタパ国際貿易産業大臣、ニュージーランド・グローサー貿易大臣と二国間会談を行ったほか、各国の閣僚とともにテイン・セイン大統領を表敬しました。

1. 東アジア地域における経済統合の推進

(1) RCEP 交渉の推進

RCEP 閣僚会合(27日)においては、RCEP を、東アジア地域の経済の進展に対応し、かつ地域全体の競争力を高めるものとするべき旨述べました。また、私から高いレベルを目指しつつも、各国の事情や主張を踏まえた現実的なアプローチで交渉を進めることを提案しました。結果として、物品貿易のモダリティ(交渉の進め方に関する約束事)の合意に向けた方向付けができ、本年12月に開催予定の次回交渉会合までに物品貿易のイニシャル・オファーを交換することに多くの国が賛同しました。また、サービス貿易や投資の自由化方式について議論が進展し、電子商取引にかかる規律および中小企業を交渉分野に加えることに合意しました。さらに、2015年末までに RCEP に合意するという目標を閣僚間で再確認しました。

(2) 東アジア地域における産業の高度化と連結性の強化

EAS 経済大臣会合(27日)において、ビジネスの連結性を強化し、各国の強みを活かした形で産業を高度化すべきであることを述べ、多くの国から賛同を得ました。具体的には、来年夏の経済大臣会合までに、東アジア・ASEAN 経済研究センター(ERIA)による産業クラスター分析を完成させることに合意しました。その成果を踏まえ、各国で協調してバリュー・チェーンを高度化させていくこととなりました。



(EAS 経済大臣会合)

2. 日 ASEAN 間の経済産業協力の深化・拡大

(1) ASEAN における新たな産業分野の育成に向けた協力

第1回日 ASEAN 新産業官民対話(26日)に出席しました。日 ASEAN の官民で環境、健康・医療、コンテンツといった新産業について対話を行う初の試みでした。環境対策や高齢化への対応や生活の質の向上といった課題を、新たなビジネスのフロンティアを開拓するチャンスと捉え、日本と ASEAN の官民で協力することに合意しました。ASEAN 側からもこの官民対話について高い評価を受け、こうした取り組みを今後も継続的に行うこととなりました。

同日の日 ASEAN 経済大臣会合では、2012年8月に合意した「日 ASEAN10年間戦略的経済協力ロードマップ」に、新産業分野の育成や知的財産、中小企業金融等の項目を追加し、協力を強化することに合意しました。日 ASEAN の経済協力を新たな段階へ高める契機となりました。

(2)メコン地域の経済・産業開発

日メコン経済大臣会合(27日)において、域内各国(タイ、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー)の相互補完性を高め、日本とメコン各国の産業連携を深める戦略を示す「メコン産業開発ビジョン」を来年夏の経済大臣会合までに作成することを確認しました。また、ミャンマーにおけるティラワ経済特区の開発やラオスにおける JETRO 事務所の開設等の日本からの協力を紹介し、今後もメコン地域の発展に向けて、ODA や官民連携等により着実に取り組む旨を発言し、各国から高い評価を得ました。



(新産業官民対話)



(日 ASEAN 経済大臣会合)

3. 各国との会談

(1)テイン・セイン大統領への表敬

各国の経済大臣とともにテイン・セイン大統領を表敬しました。東アジア地域の経済統合の重要性について、認識を共有しました。



(2)マレーシア・ムスタパ国際貿易・産業大臣

来年 ASEAN の議長国となるマレーシアと、RCEP や TPP の交渉推進に向けて緊密に協力することで一致しました。(テイン・セイン大統領への表敬) また、シンガポール・マレーシア高速鉄道等のインフラ開発についても意見交換を行いました。

(3)ニュージーランド・グローサー貿易大臣

RCEP や TPP の交渉推進に向けて緊密に協力することで一致しました。グローサー貿易大臣は通商交渉のベテランで、私も10回近く会談を行っています。



(マレーシア・ムスタパ大臣との会談)